『その天才様は偽装彼女に執着する』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査結果

■アンケート調査概要

調査目的	『その天才様は偽装彼女に執着する』の漫画の感想レビューに関するアンケート調査
調査対象	『その天才様は偽装彼女に執着する』を読んだことのある10代～50代の男女74名
調査期間	2026年1月8日～2026年1月9日 2026年1月16日 2026年2月21日 2026年4月24日 2026年5月29日 2026年6月12日 2026年7月17日 2026年8月28日 2026年9月18日 2026年10月16日
調査方法	インターネット調査
モニター提供元	クラウドワークス
データ使用サイト	https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/sonotensaisamahagisoukanozyonisyutyakusuru/

■アンケート項目

Q1:年代と性別を教えて下さい。
Q2:『その天才様は偽装彼女に執着する』を実際に読んだ感想を教えて下さい。

Q1:年代と性別を教えて下さい。

20代男性	0人
20代女性	1人
30代男性	1人
30代女性	3人
40代男性	0人

40代女性	50人
50代男性	18人
50代女性	1人

Q2:『その天才様は偽装彼女に執着する』の感想を教えて下さい。

『その天才様は偽装彼女に執着する』1巻	私生活がだらしないからか、郁さんってイケメンっぽいなと感じつつも微妙だったんですよね。そういう面を持っているだけに、授賞式での変貌ぶりには驚きました。見た目が凄いのはもちろん、仕事面でもあそこまで評価されているとは。そりゃあ女性から大人気なのも当然だとうなづけました。ただ、仮とはいえそんな人の恋人役をさせられることになった凛さんは大変ですし、やっかいごとに巻き込まれそうじゃって心配になりました。
『その天才様は偽装彼女に執着する』1巻	草食系男子なんて言葉も定着してるなか、この強引さはむしろ魅力ですね。何しろ天才プログラマーなのですから、偉そうで当然。それにしても、婚活中の女性が若い男性のもとに家事代行で訪れるなんて。そりゃそういう展開になって当然でしょう。恋人契約もってうらやましい。とりあえず、目の保養となる相手と一つ屋根の下ってだけで最高。
『その天才様は偽装彼女に執着する』2巻	偽装彼女としてのお共先が、トラブルで辞めた元職場とかキツすぎる展開。しかもなんだか被害者である凛が悪いような雰囲気になってて、元同僚からもヒソヒソされてて最悪なんですけど。おまけで浮気した元カレと元カノにしつこく迫られるとかうざいことになってしまって、ガチで凛が可哀想。なんでこんなひどいとこに若月が凛を連れてきたかはあとで種明かしされますが、しかしひどい職場と交友関係だったんだなぁとつくづく思いました。これは若月はつらい目にあった凛をたっぷり甘やかして慰めてあげないといけないですね。最後の紗矢の様子からしてまだまだ一波乱ありそうですが、凛には負けずに頑張ってほしいです。
『その天才様は偽装彼女に執着する』2巻	1巻の時点で凛が元彼に浮気されたうえに、嘘の悪評ばら撒かれて可哀想って思ったけれど、やっぱり裏で色々動いていたのは、元彼ではなく相手の女の方だったか。単に人のものが欲しくなっちゃうタイプなのか、凛に何かしらの恨みがあるのか知らないけれど、あの調子じゃまだまだ凛の邪魔ばかりしてきそうで怖いですね。けれども若月さんは、色々とその辺の事情も把握してるっぽいし、これからも凛を守ってくれるといいな。
『その天才様は偽装彼女に執着する』3巻	半住み込みって、そのまま同棲しちゃえばって感じのイチャイチャっぷりです。まあ契約だし一応は半年間限定。なのでこれが妥協点でしょうね。ライバル出現でムカムカポイントも多くなるけど、その分二人の距離が近づくのであれば御の字。こんなイケメンでしかも天才様。誰もが狙うにきまってますよね。相変わらずイラストもきれいです。
『その天才様は偽装彼女に執着する』3巻	半同棲ということになって朝から晩まで二人っきり。更に胸キュンポイントが増えて悶えていました。朝からベッドに引きずり込まれてキスされそうになんて状況、なってみたい。とはいえ、あくまで契約者ってことで凛としては心臓がいくつあっても足りないくらい。本当の恋人ならともかく、イチャイチャになればなるほどどうすればよいかといった様子の彼女の気持ちもよくわかる。
『その天才様は偽装彼女に執着する』4巻	サヤの存在がとにかく邪魔なこの巻。相手を貶めることで自分を上の立場にしようだなんて、根性がねじ曲がっています。たとえ本当であってもそういうやり方って嫌ですよね。せっかく二人の距離が近づいてきてるのに。更には来なくてもいいなんて言われて、ピンチの連続にドキドキしてしまいました。これを乗り越えてハッピーエンドになってほしい。
『その天才様は偽装彼女に執着する』4巻	紗矢がここまでするとは思ってもみませんでした。すでに凛は退職していますし、毎日仕事で顔を会わせるなんてこともありません。なのに、嘘を捏造し、それを郁に報告して貶めようとするなんて。ここまでするのかとイラっときました。そして凛をダシにして、自分は郁のお近づきになろうというのですから。郁も同行することを許しているような感じですし、凛が可哀そうになりました。
『その天才様は偽装彼女に執着する』5巻	郁さんなどターゲットに定めた相手の前ではにこやかに可愛らしく振る舞っているのに、他人の目がない場所ではドロドロした内面がにじみ出ているかのような恐ろしい形相をする紗矢の姿にゾッとしましたし、そんな女性に騙されて不当に貶められてきた凛の辛さを思うと怒りが込み上げてきました。なので郁さんが紗矢に対して超塩対応なのにはスカッとしました。

『その天才様は偽装彼女に執着する』5巻	悪女であってもかわいい子ならその顔にふらふらと引き寄せられて善悪が分からなくなる男性も世の中には多いですが、さすがは天才様です。きっぱりとサヤを切り捨てて、溜飲が下がります。とはいえ、まだまだ若造ですよね。凛ちゃんへのフォローも同時に行ってないと、不安だらけになっちゃってますよ。これでサヤの言いなりになったら最悪。
『その天才様は偽装彼女に執着する』6巻	わざと自分から噴水に飛び込むなんて、かなりやばすぎるでしょう。彼みたいな逸材、なんとしても捕まえたいという思いは分かりますが性格悪いだけでなく精神面もやばくて、ちょっと引きました。とはいえ、彼女の存在がいいスパイスとなってくれたことは事実です。そのおかげで本当の気持ちに気がつくことができましたし、二人の愛も深まった。
『その天才様は偽装彼女に執着する』6巻	疑心暗鬼でずっと暗かった凛ですが、自身の力で立ち直ることができてよかった。というか、ずっと彼女を見てきてるんですから人を噴水に突き飛ばすなんてあくどい真似、やるわけないってわかりますよね。焦るあまり、サヤさんなんてことをやらかして。こんな奴が近くにいること自体がヤバイ。なんだか放っておいても自分で自滅してそう。
『その天才様は偽装彼女に執着する』7巻	天才だしかっこいいけど、やっぱり家事能力がないと結婚相手には向かないかも。とはいえヒロインは家事代行サービスを行うくらいの家事能力の高さですから、これも割れ鍋に綴じ蓋ってことか。体調が悪いならちゃんと寝てましょうよ。やっぱり一緒に寝ようとしたりキスしようとしてきたり、郁は郁です。変わらないですよね。
『その天才様は偽装彼女に執着する』7巻	やっぱり凛がいないとだめですね。あっという間に汚部屋になってしまって、イケメンだけど家事能力の低さにはドン引きかも。家に入れてくれなかったのは体調を崩してたから。少女漫画で体調不良って最高のスパイスかも。弱ってる時に優しくされると誰でもホレてまうやろ。弱ってる郁もなかなかかわいらしかった。とはいえ相変わらず強引ですが。
『その天才様は偽装彼女に執着する』8巻	こんなにも心も体も接近してる二人なのに、最初に契約が結ばれてしまうとそこから前に進むのってかなりパワーがいりますよね。でも契約恋人ならひとけのない場所ならただの他人に戻るはずで、凛さんの心なんて天才様にはオミトオシなんですよね。ただの契約恋人という爆弾が二人の関係を大きく変えてくれたらいいのですが。
『その天才様は偽装彼女に執着する』8巻	やはり天才様、パーティーとかって一般庶民にはないシチュエーションですよ。一応は恋人役ということもあり、着飾った凛ちゃんがかわいいです。郁もメロメロになってるはずで、なのに本物の恋人同士じゃないからなんて爆弾落とされたら、一気に打ちのめされてしまいますよね。罰を与えられて当然。というかこんな罰ならもらってみたい。
『その天才様は偽装彼女に執着する』9巻	紗矢の武器は嘘とぶりっこだけかと思いきや、郁さんの仕事を妨害するという脅しまでかけてくるなんて、予想以上の腹黒さとなりふり構わなさに嫌悪感を抱きました。凛から昔ひどいイジメを受けていて、その復讐のためにこんなことをしているとかならまだ理解できますが、紗矢の場合は単なる自己愛と上昇志向であることが判明しているので、こんな性悪な人とは関わり合いになりたくないなと思いました。
『その天才様は偽装彼女に執着する』9巻	再び現れたサヤ。まだまだあきらめてなかったようで、いろいろと引っ掻き回してくれます。まあ噴水に入ってまで奪おうとした相手なのですから、そう簡単にはあきらめられないでしょうね。仕事を盾にして別れたら許すからとかって相変わらず強引だし、卑怯すぎる。契約恋人とはいえすでに大好きな相手。でもそんな相手のためにと身を引く凛がけなげ。
『その天才様は偽装彼女に執着する』10巻	凛がいなくなって動揺する郁。その姿を見ていると本当に大好きになってたんだなと分かってつらいです。そこで登場した凛のお兄ちゃん。イラストがキレイで凛ちゃんもかわいいですが、お兄さんもなかなかのイケメンですね。ただ彼の口から語られた凛の子供時代がつらくて、イケメンっぷりがしっかり入ってこないのがちょっともったいない。
『その天才様は偽装彼女に執着する』10巻	凛のことが大好きな気持ちがしっかりと伝わってくるこちらの巻、なんとか見つけ出すことができましたからもう二度と離さないでほしいものですね。イケメンに愛されてうらやましい限りのヒロイン凛でしたが、こんな過去があったとは。衝撃の巻でもあります。つらい過去は忘れてぜひ今度こそ幸せになってほしい。そう強く願ってしまいました。

『その天才様は偽装彼女に執着する』11巻	郁のために契約破棄を申し出た凛。そのまま姿を消していましたが、ちゃんと郁に見つけてもらえて事情も分かってもらえて本当によかったですね。これでめでたしめでたしかと思いきや、やっぱり契約破棄って。どういうことなんでしょう。というか、サヤどうにかなりませんかね。それだけやってももう二人のきずなは固く奪うなんて不可能なのに。
『その天才様は偽装彼女に執着する』11巻	まさかの契約破棄で驚きました。でもあの笑顔は絶対に何か考えているはずです。紗矢に対しての仕返しができそうです。そして、郁はやっぱり有能です。凛がここまで正直に気持ちを言えたのは、郁がそう仕向けたからです。11話は郁の有能さを再認識できた話でした。
『その天才様は偽装彼女に執着する』12巻	郁さんによる罠だとも知らずに嬉々とした表情を浮かべていた紗矢が、悪事を明らかにされて会社をクビになってしまうという末路を迎えた時は、思わずザマアミロという気持ちになりました。凛に対する数々の嫌がらせ以外にも、他人を見下して利用してきたらしい彼女には当然の報いだと感じましたが、ここまで追い詰められても悪あがきしようとする姿はある意味あっぱれだと思いました。
『その天才様は偽装彼女に執着する』12巻	ここまで引っ掻き回しておいて、それで郁と付き合えるなんて根性悪く精神面がヤバイだけでなく頭も悪かったとは。ウキウキと社長室にやってきて、そしてどん底に落とされて。ついにサヤへの反撃でスカッとの巻です。彼女がのぞむのは誰もがうらやむ人生。そういう相手なら別に郁じゃなくても全然いいんですよね。かわいそうな人です。
『その天才様は偽装彼女に執着する』13巻	混乱の余り言動もおかしくなってしまっているサヤ。こういう相手とは近づかないのが一番です。退室していったサヤ。身の程を知ってこのまま退場となってくれることを願いますね。そして社長の下で契約じゃなく本物だと宣言した二人。ようやく本当に恋人同士になれました。雨降って地固まるってことで、サヤのおかげかもしれません。
『その天才様は偽装彼女に執着する』13巻	自分があれこれやっておいて、それで「何もかも私のせいでいいから」なんてどの口が。まったくばれてないと思ってたのでしょうか。結構なことやってるのに。天才っぷりをちゃんと理解してなかったか。とりあえず、悪女は去りました。最後までサイコパスな奴で、普通に仕事してたのが怖い。誰も気が付かずにいたんでしょうね。
『その天才様は偽装彼女に執着する』14巻	社長の前で愛を誓ったんだから、契約恋人じゃなく本物の恋人になったというのに。これでめでたしめでたしハッピーエンドじゃないんですか。それにしても、恋の駆け引きというけれど、押してダメなら時には引くってのも大切なんですね。ずっと郁の強引さに引いてた凛なのにまさかのこんなに積極的になるなんて。時には駆け引きも大切。
『その天才様は偽装彼女に執着する』14巻	強引に積極的にというと郁の専売特許でしたが、この巻ではむしろ郁はそっけない態度を貫きます。せっかく二人が愛を確かめ合ったはずなのになんで。違った意味でドキドキさせられる巻です。ドキドキと言えば積極的な凛にも。何しろ告白して自分の気持ちをぶつけたのですから怖いものなし。押していく凛ちゃんってのもかわいくていい。
『その天才様は偽装彼女に執着する』15巻	晴れて郁さんと本当の恋人同士になったのだから、がんばって自分からも郁さんにアプローチしようとする凛がとてもかわいかったです。そんな凛とは正反対に、優しく余裕のある態度で彼女を受け止めようとしている郁さんもカッコよかったのですが、これまでとはどこか違う様子に、凛と同様にかすかな不安を覚えてしまいました。
『その天才様は偽装彼女に執着する』15巻	これまでは契約恋人だからと一歩引いた立場でいた凛。でも本物の恋人になって、どうすればよいかわからなくなって。しかも郁から来てくれないから自分から行くしかない。とにかく暴走する凛ちゃんがかわいいですね。恋愛初心者だからちょうどいいころ合いってのが分かってないわけです。時には押すのもいいけど押しすぎもダメですよ。
『その天才様は偽装彼女に執着する』16巻	成人していて元カレもいるのにここまで男性に不慣れなのは、何かトラウマでもあるのではないかと勘ぐってしまうほど、自分から仕掛けたにもかかわらずアワアワしたあげくフリーズしてしまう凛が面白かったしかわいかったです。郁さんがウェルカム状態じゃないのが残念でしたが、しばらくもどかしい2人を見ていたい気持ちもあり、楽しめました。
『その天才様は偽装彼女に執着	凛が積極的な態度を見せたら、郁さんは驚きつつも喜んで受け入れてくれるのではないかと思っていたので、まさかのすれ違い展開で切なくなってしまいました。このすれ違いが原因で2人の仲

する』16巻	がこじれてしまわないか心配です。はやく仲睦まじい凛と郁さんの姿が見たいですが、また凛がお兄ちゃんにアドバイスを求めたりしたらさらにややこしくなりそうだなと思いました。
『その天才様は偽装彼女に執着する』17巻	凛のひとりごとに対して郁さんが困惑した表情で「困るんだけど」と言った時は、なんでそんな冷たいことを言うのかとショックを受けましたが、その理由が明かされた時は、やっぱり郁さんの想いは揺らがないのだと分かってホッとしました。またその後の、お互いに気持ちが抑えられなくなって触れ合うシーンはとてもドキドキしました。
『その天才様は偽装彼女に執着する』17巻	少女漫画部門で1位になっていたことで気になり、読んでみたところ郁さんの顔の良さに沼って気付くと全巻買って読んでました。17巻は郁さんの独占欲や執着心がよく分かる巻で、ほかの巻に比べて凛との会話などが少し重く感じるけど、郁さんの顔面アップのコマや、セリフがとても良くて、こっちまでキュンッとしてしまいそうです。
『その天才様は偽装彼女に執着する』18巻	冗談交じりにガンガン迫って、それをたしなめて。契約恋人だからこそうまく行ってたとは。逆に彼女が積極的になるとなりすぎて、今度は郁が暴走して。はたから見てると面白い。とはいえ、めちゃその気になってるのにマテでお預けを食らった郁はちょっとかわいそう。あのとろけた顔の凛を見て制御できる彼氏はいないでしょうね。
『その天才様は偽装彼女に執着する』18巻	郁の暴走ですっかり女の顔になっちゃってる凛。とにかくかわいい姿を見せてくれます。でも郁にとっては鬼ですね。だってそこで待ってって言われても。ちゃんとマテができるなんて偉い偉い。なんだかんだでハチャメチャになってる二人がかわいい巻です。って新たなイケメンが。彼はいったい誰なんでしょう。恋愛上級者っぽい。
『その天才様は偽装彼女に執着する』19巻	18話で悩む郁さんの話を聞いてくれた優しげなさわやかイケメンくんはきっと今後も登場するだろうなと予想していましたが、まさか凛の関係者だとは思っていなかったですし、意外なほどはやい再登場で、さっそく新展開が始まりそうな流れにワクワクしました。悠陽という名前だと判明したイケメンくんですが、自分が相談にのってあげた郁さんの相手が凛だと知ったらどんなリアクションをするのか楽しみです。
『その天才様は偽装彼女に執着する』19巻	偶然公園で出会った男性によるアドバイスのおかげで凛と郁さんの間にあったぎこちなさがなくなり、円満な関係になったのはとても喜ばしかったです。ただし、その偶然会った男性がなんと凛の幼馴染だと判明した時は非常に驚きました。凛のお母さんとも仲が良さそうな様子なので、郁さんと凛の仲を引っかき回しそうで心配です。
『その天才様は偽装彼女に執着する』20巻	いくら以前親しくしていた相手とはいえ、別れた理由すら知らないお母さんから、「今からでもアプローチすれば絶対なびく」と言われてその気になってるあたり、悠陽くんは凛のことがまだ好きなんだろうなとヒシヒシと感じました。ただ、悠陽くんの口ぶりからして悠陽くんが原因で凛と別れたっぽいので、まだ好きなんだとしたらなんで当時別れを選んでしまったのか、その理由が気になりました。
『その天才様は偽装彼女に執着する』20巻	凛のお母さんは娘と郁さんとの関係を知らないのだから仕方ないのかもしれませんが、悠陽くんに対して「凛はまだ絶対悠陽くんのことが好きよ！」なんて見当違いなことを言い出した時は、勝手に余計なことをしないでお母さん！と叫びたくなってしまいました。悠陽くんいわく2人は「あんまりいい別れ方ができなかった」らしいのに、事情も知らずに軽々しく復縁を応援しちゃうお母さんは、良い人なのでしょうがちょっとありがた迷惑だなと思ってしまいました。
『その天才様は偽装彼女に執着する』21巻	始めのころは強引にキスを迫ったりして余裕っぽい姿を見せてた郁なのに、マスコットキャラにまで嫉妬って、どうなんでしょう。まあ釣った魚に餌をやらなくなる男性よりはいいのか。テーマパークデートとか、ようやく王道な恋人同士になれましたね。契約から始まった二人がラブラブに過ごしてる姿は読者としてもうれしいものが。

『その天才様は偽装彼女に執着する』21巻	天才様なはずでしょう。なんでこんなに余裕なくなっちゃってるんですか。これほどまでに嫉妬深いとは。まあそれだけ凛を愛しているということですね。マスコットキャラクターの中身の人も、いやいやなんでにらんでるのとひそかに突っ込みを入れていたはず。本人としては本気なところがかわいい。なかなかやっかいな恋人です。
『その天才様は偽装彼女に執着する』22巻	郁さんみたいな天才俺様タイプは子どもの相手をするのは苦手そうだし、子どもの方からも懐かないんじゃないかという偏見を持っていたので、迷子の男の子に対してアタフタしたり鬱陶しそうにしたりせず、自然な感じで相手をしている郁さんが意外に感じると同時に、良いお父さんになりそうで素敵だなと思いました。凛とのやりとりも可愛くて、癒される回でした。
『その天才様は偽装彼女に執着する』22巻	けっこう強引だしめんどくさい性格だし、イケメンだけど結婚相手としてはちょっとと思えていた郁ですが、意外に子供の相手も得意だったのですね。天才様と子供。意外な組み合わせに癒される巻でした。もしかしたらイクメンになってくれるのかもしれませんね。ただマスコットキャラクターにも嫉妬してるのですから、子供と凛を取り合いそうな予感も。
『その天才様は偽装彼女に執着する』23巻	凛の過去についてはお兄さんが話してくれていましたが、郁にも面倒な過去がありそうですね。そういうところ、カップルで似なくても。悪い人間だったらどうするかって、だってすでに郁という人間を知って愛してくれてるのですから、ちょっとやそっとのことで嫌われるはずないんですけど。とはいえ元カレの存在もあり、これからの波乱が心配です。
『その天才様は偽装彼女に執着する』23巻	なかなかハッピーエンドになりませんね。悪女・暴走の次は過去ですか。ノアとは元カノなのか。こんなイケメンがこれまで誰とも付き合ったことないなんて思えもしないですからね。そして凛だってあのかわいさで放っておかれるはずがない。元カレ元カノの存在が二人の未来にどう影響を及ぼすのか。また波乱の幕開けとなりそうです。
『その天才様は偽装彼女に執着する』24巻	とうとう凛と悠陽くんが顔を合わせてしまい、どうなってしまうのか心配でしたが、凛の中には悠陽くんに対する未練みたいなものが残っていないようで安心しました。ただしその後のお母さんによる悠陽くん大プッシュは要らないおせっかいだなと感じてしまいましたし、さらにお兄ちゃんが郁さんとのお付き合いに反対してきたことは衝撃的でした。
『その天才様は偽装彼女に執着する』24巻	23巻で、郁さんになにやら暗い過去があることが判明したので、凛のお兄ちゃんが郁さんと妹が恋人同士でいることに難色を示したのはそれが理由なのかもしれないと思いました。ただその場合、これまでのお兄ちゃんの言動と矛盾が生じるので、つい最近郁さんが別の女性と一緒にいるところを目撃したとかの可能性もあるかもしれません。真相が知りたいので、続きが待ち遠しいです。
『その天才様は偽装彼女に執着する』25巻	ずっと変わらずベールに包まれたままの郁の過去。いったい何があったというんでしょう。罪を犯してるってどういうこと。確かにどんなに今がすばらしい人物であっても、お兄ちゃんとしてはそんな相手とのお付き合いを許すわけないですよね。海外でのプログラミング大会で、何が起こったのか。とにかく気になってしまいます。
『その天才様は偽装彼女に執着する』25巻	イケメンお兄ちゃんにまで郁との恋愛を反対されて、凛はどうするのでしょう。味方になってほしいけれど、どうやら過去にプログラミング大会で何らかの罪を犯しているようで、その内容によっては反対したくなる気持ちもわかりますよね。凛には幸せになってほしいから。もやもやが晴れないままとなってしまう巻です。早く真相が知りたい。

『その天才様は偽装彼女に執着する』26巻	ハッキング事件を一度じゃなく何度か起こして、しかもその罪を他の奴になすりつけてそのまま逃亡。かなりの犯罪行為で凛じゃなくてもパニックです。でも今の彼を見ていると、そんなことをやらかしそうとはとても思えないんですよね。ただ何もなかったわけではなさそう。言い訳をしないのはいろいろと複雑な事情があるのでしょうか。
『その天才様は偽装彼女に執着する』26巻	凛は信じませんでしたが、読者としてもそう思います。彼がそんなことやるわけないでしょう。むしろ罪をなすりつけられたのでは。そこで出てくる他人の存在が気になります。その相手とのことがあるから凛に言い訳ができずにいるのでは。お兄さんも彼と会っているのですから、信じてあげてほしいですよね。凛がパニックになるのがわかる。
『その天才様は偽装彼女に執着する』27巻	郁さんは凛に聞かれればきちんと過去になにがあったかを話してくれそうな気がしますが、もしも誤魔化されちゃったら辛いですし、言いにくいことを郁さんに言わせてそれで彼を傷付けたり、遠ざけられたりするのが怖いという凛の心情も良く理解できて、読んでいて悲しい気分になりました。そんな時に悠陽くんからの接触まであって、郁さんが凛の気持ちを誤解しないか心配です。
『その天才様は偽装彼女に執着する』27巻	火のない所に煙は立たぬと言いますから、信じがたい大事件にまったくかかわっていないとは言い切れないんですよね。凛が知っているのは今の郁だけ。信じたいけれど信じられない。心揺れ動く彼女の言動が不自然になっても当然です。そんな揺れ動いている状態の中で寄り添う元カレの存在。やばいってそのまま靡いてしまいそう。
『その天才様は偽装彼女に執着する』28巻	確かに今は郁とは不安定な状態ですから、彼氏がいないともいえるでしょう。でも心は変わらず彼のもとにあるわけで、なのに凛は彼氏がいないからと元カレをけしかけないで。凛ママやめてほしい。郁はやっぱり優しい。でも過去については分かっていない。不安定な状態は、いつまで続くのでしょう。読者としてもやきもきしてしまう。
『その天才様は偽装彼女に執着する』28巻	やっぱり優しい郁。そんな彼が過去にこれほどの大それた悪事をするわけないのです。そう信じることができればいいんですけどね。ごく普通な感性の持ち主である凛がついついふらふらとして土台が定まらないままでいるのもわかります。そんな時、母親としては彼女にそっと寄り添ってほしい。まあ元カレを押したくなる気持ちもわからないでもないけど。
『その天才様は偽装彼女に執着する』29巻	悠陽の報告は意外でした。もしかすると三角関係になるかもと心配していましたから。凛の心配をしてくれていた悠陽の優しさにほっこりしました。
『その天才様は偽装彼女に執着する』29巻	郁の対応には驚きました。兄と郁は親友のような関係に見えていただけに、ここまで態度を変えてしまうのかと。ただ、本心から出た言葉ではないようにも思えます。郁は何を考えてこのようなことを言い放ったのか、注目したいです。
『その天才様は偽装彼女に執着する』30巻	郁が凛たちと喧嘩別れしたのは残念でしたけど、事情があったと知って一安心しました。まさか凛たちを想ってのことだったとは。ただ、大好きな凛にあのようなことを告げるのは、精神的に相当キツかったと思いますし、郁のメンタルが心配です。
『その天才様は偽装彼女に執着する』30巻	郁の家へ訪ねてきた人物に驚きました。郁が紗矢と深い関係にあるとは思えません。恐らく、一方的に押しかけてきただけでしょう。しかし、凛にとってはどうでしょうか。家へ訪ねてくるぐらいなのですから、郁と紗矢が男女の関係になっていると勘違いしてもおかしくはありません。 紗矢の登場によって、凛の気持ちがどのように変化するのか注目したいです。
『その天才様は偽装彼女に執着する』31巻	郁の行動には、やはり何か意図がありそうに感じます。これまでの描写を踏まえると、郁の価値観的に紗矢が特別好みのタイプであるとは言えません。外見の魅力はともかく、内面についてはしっかり見抜いていそうな人物ですから、なおさら違和感を覚えました。
『その天才様は偽装彼女に執着	この交際は単なる感情だけで動いたものではなく、何か目的や事情があっての選択なのではないかと思えてきました。打算なのか、誰かを守るためなのか、それとも別の思惑があるのか。いずれ

する』31巻	にしても、郁の真意がどこにあるのかは気になるところです。
『その天才様は偽装彼女に執着する』32巻	郁が紗矢と恋人関係になる展開には違和感がありましたが、今回の話で納得できました。郁は最初から本気だったわけではなく、自分の情報を流している黒幕を突き止めるために動いていたのですね。これによって、自分を敵視している人物の存在も探れるわけですし、かなりの策士だと感じました。
『その天才様は偽装彼女に執着する』32巻	凛のことが気にかかります。凛からすれば、信じていた恋人に裏切られたようにしか見えなかったでしょう。しかも郁は、わざと突き放すような言葉まで口にしていました。そのショックは相当大きいはずで、凛が人間不信に陥ってしまわないか心配になります。
『その天才様は偽装彼女に執着する』33巻	紗矢の動きが怖いですね。すでに仕事でミスをしてしまったこともあり、これ以上依頼者の機嫌を損ねるわけにはいきません。とはいえ、郁との関係性を考えると普通に接点を持つのも難しいでしょう。紗矢はかなり取り乱した様子でしたし、依頼者の要求に応えるためにどのような行動を起こすのか気になりました。
『その天才様は偽装彼女に執着する』33巻	凛の行動も気にかかります。郁自身、凛との関係は切ったつもりでした。彼女を深く傷つけるようなことまでしています。普通に考えれば、凛が郁の前に姿を見せる理由はありません。それにもかかわらず、凛は何事もなかったかのように郁の前へ現れました。もちろん内心では様々な感情を抱えていることは間違いないでしょう。だからこそ、凛がどのような思惑で動いているのか注目したいです。
『その天才様は偽装彼女に執着する』34巻	凛の行動には、そんな意味があったのかと驚かされました。郁は紗矢のことを恋人だと紹介し、その紗矢もそれを認めています。普通に考えれば、その時点で凛に入り込む余地はありません。そのため、凛が一度帰った時は、さすがに諦めたのだろうと思っていました。でも、それはすべて演技だったんですよね。郁が自宅へ戻ってくることまで見越したうえで行動していたとは驚きましたし、あの短時間でそこまで考え、実行に移せた凛の判断力には感心しました。
『その天才様は偽装彼女に執着する』34巻	郁が起こした過去の事件も気になります。郁の話を聞いている限りでは、まだすべての真実を語っているようには思えません。むしろ、凛を危険に巻き込まないため、あえて冷たく突き放し、真実を隠しているようにも感じられます。もしそうだとすれば、郁が抱えている事件は想像以上に深刻なものなのでしょう。実際にはどのような事件だったのか、注目したいです。
『その天才様は偽装彼女に執着する』35巻	凛の真意が読めないですね。単純に考えれば、凛なりの意趣返しと取れます。一方的に別れを告げられた腹いせに、今度は凛から一方的にフッてやる。そのように考えているとも取れなくはありません。しかし、凛がそのような短絡的な行動を起こすでしょうか。恐らく、凛なりに深く考えての行動だと思います。
『その天才様は偽装彼女に執着する』35巻	ん一、凛の発言はどういう意味なんでしょうか。一度きれいさっぱり関係を絶って、0から再スタートということでしょうか。お互いに想い合っているのならそれしか思いつかないですね。契約とかそんなしがらみも全部なくそうということでしょうか。
『その天才様は偽装彼女に執着する』36巻	凛が別れ話を口にした時は、本当に驚きました。それまで良いムードになっていただけに、意外過ぎたといいましょうか。もしかすると、突然別れ話を切り出してきた郁に意趣返しをするために、あえてこのような立ち回りをしたのかとさえ疑ってしまいました。
『その天才様は偽装彼女に執着する』36巻	昴が訪ねてきたことに驚きました。しかも一人ではありませんし、妙に気まずそうな様子を見せています。どんな事情があって郁を訪ねてきたのか注目したいです。
『その天才様は偽装彼女に執着する』37巻	今回で、悠陽の存在感が一気に増したように感じます。これまで悠陽に感じていたことといえば、凛や昴の幼馴染ということぐらいしかありません。凛は悠陽に恋愛感情を抱いていませんし、正直今さら出てきてもという印象を持っていました。それだけに、この展開には衝撃を受けます。
『その天才様は偽装彼女に執着する』37巻	まさか、郁の過去を知っていたとは思いませんでした。仕事のことに関しても、まさか郁と同業者だったとは思ってもいません。本当に、人って見かけによらないものだなと驚かされました。

漫画全巻の部屋
by ㈱グリュックス